

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

迎春 希望に満ち溢れた新年をお迎えの事と、心からお慶び申し上げます。

環境的側面、経済的側面、社会的側面が複雑に関わっている現代において、健全で恵み豊かな環境を継承し、持続可能な社会を実現するためには、社会経済システムに環境配慮が織り込まれ、環境面から持続可能であると同時に、経済、社会面でも健全で持続的である必要があります。

その様な事から、我が愛知県においては、「愛知万博」と「COP10」の開催という経験を活かし、一昨年には「持続可能な開発のための教育（ESD）ユネスコ世界会議」が開催され、ここ豊田市においても、昨年1月には国連との共催による「持続可能な都市に関するハイレベルシンポジウム」を開催するなど、この地域は持続可能な社会の実現に向け、これまで中心的役割を担ってきましたが、日本一の産業県として、世界をリードする更なる取り組みが必要と考えます。

そこで、昨年12月の県議会一般質問において、私は持続可能な社会の実現に向け、「地球温暖化対策」「森林&林業の在り方」「都市づくり」「県民意識の高揚と各種活動支援」の大きくは4点について県の考えを質しました。

それぞれ課題はあるものの、特に各種活動支援の内、ESDの取り組みについては、各市町村や学校・NPOといった団体に任せきりとなり、県としての主体性が見受けられませんでしたので、推進体制の見直しを強く要望いたしました。今後、持続可能な社会の実現に向け、提言活動に努めてまいりますので、変わらぬご指導をお願い申し上げます。

最後になりますが、本年が皆様にとって幸多き年となるようご祈念申し上げ、新年の挨拶に代えさせていただきます。



愛知県議会議員

こ た ま よ し か ず

樹神 義和 